

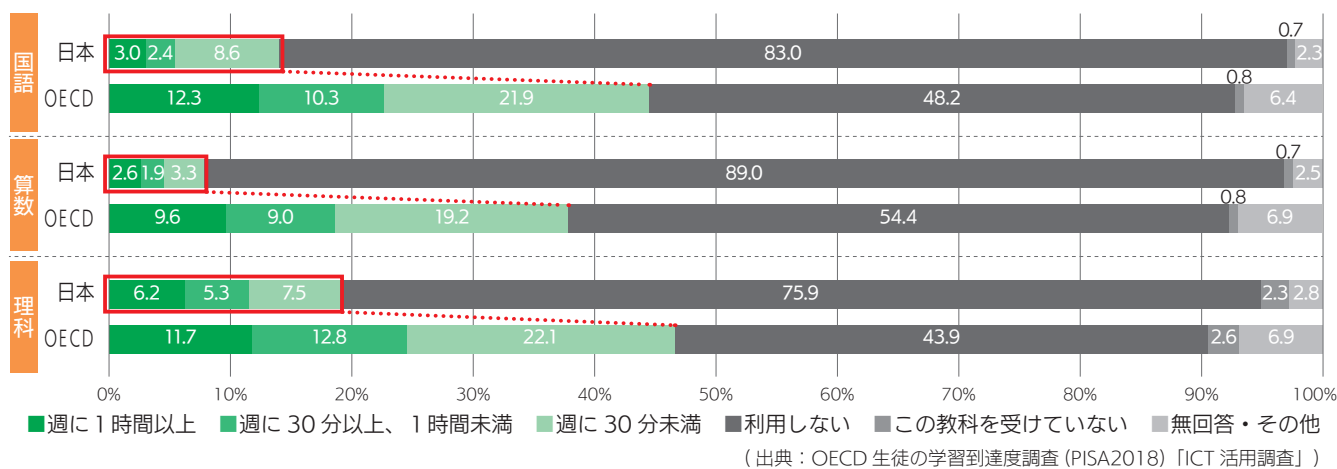
文部科学省が発表した学校教育でのICT環境整備に関する計画で、児童生徒1人1台の学習用端末（パソコンやタブレット）と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現をめざすものです。

この構想の背景には、わが国の学校教育におけるICT活用の現状が世界から遅れているという状況があります。学校のICT環境整備が十分ではなく、学校の授業でのデジタル機器の使用時間（図1）はOECD（経済協力開発機構）加盟国で最も短く、最下位となっています。

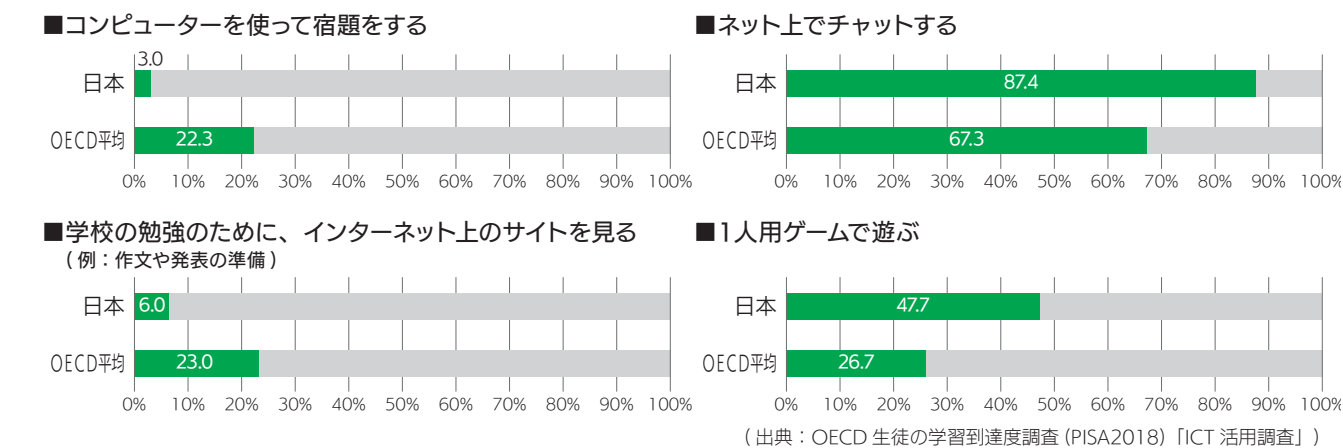
また、学校外での使用（図2）についても、チャットやゲームなど学習外の使用が多い傾向にあります。今後は情報活用能力の育成を図るとともに、ICT環境の整備、それを活用した学習活動の充実を推進する必要があります。

GIGAスクール構想とは

●1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間（図1）



●学校外での平均のデジタル機器の利用状況（図2）（OECD平均は「毎日」「ほぼ毎日」の合計）



市が導入している学習支援ソフト「ロイロノート・スクール」

「ロイロノート・スクール」はすべての授業で使える学習支援ソフトです。簡単に自分の考えをまとめ、発表することができるので、生徒たちが自ら考え表現できる機会を増やすことができ、「思考力」「判断力」「表現力」を育成する上で大変有効な学習ツールです。



社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなり、さらに、今後、技術革新がますます加速する時代を生き抜いていく子どもたちにとって、情報端末（タブレット等）は特別なものではない、学習に欠かせない「新しい文房具」となります。

本市では、これまでの教育実践とICTの活用を適切に組み合わせ、子どもたちの学び続けようとする意欲や豊かな創造性、様々な人と協働しながら問題発見・解決に挑む資質・能力を育んでいきます。

長浜市版 GIGAスクール構想

特集 長浜市GIGAスクール構想

ICTで変わる子どもたちの学び

【GIGAスクール構想】GIGAとは、Global & Innovation Gateway for All の略。全員がグローバル(国際舞台)とイノベーション(革新的創造)の扉を開けることのできる学校にしていこうという方針を示しています。

インターネットで調べ物をしたり、SNSでコミュニケーションをとったりするなど、日常的にICT（情報通信技術）を活用する世の中になり、パソコンやスマートフォンなどといった情報端末は、私たちの生活に欠かせないツールとなりました。

また近年のコロナ禍では、リモートワークや在宅ワーク、オンライン会議など、ICTが社会全体に急速に浸透しました。

今後はICTを活用した情報収集やコミュニケーションだけでなく、情報を解析する人工知能(AI)などの先端技術を産業や社会生活に取り入れることで経済を発展させ、様々な社会的課題を解決していく社会「Society 5.0 超スマート社会」が到来するといわれています。

未来を担う子どもたちに求められるのは、変化が激しく予測困難なこれからの社会をたくましく生き抜くために必要な資質・能力を身に付けることであり、その力を育むためにもICTを活用した教育が必要とされています。

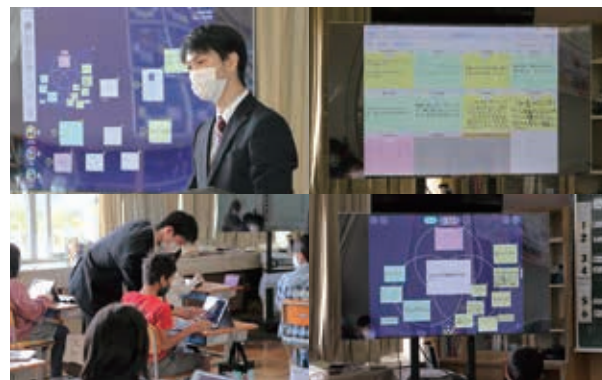
ICTを活用した学習を紹介します～長浜市立古保利小学校～



▲タブレットを使用した授業風景

この日、古保利小学校では、6年生の「道徳」の授業でICTを活用。「本当の友達とは」というテーマの学習では、子どもたちは教科書に加え、タブレットのロイロノート・スクールを使って学習を深めました。

この日の授業では、資料に登場する人物の気持ちをロイロノートのカードに記入し、先生に送信しました。先生は子どもたちが送信した意見を大型モニターに映し出し、一人ひとりがどのような意見を持っているか視覚的にとらえられるように工夫をして授業を行いました。



▲意見を分類し視覚的に捉える

また、何人かのカードをピックアップして比較検討させたり、意見の良さを生かした工夫もあり、手元の教員機を巧みに操作し、子どもたちの意見を次々に取り上げながら、「子どもたちが考え、議論する」道徳の授業を展開しました。

また、ロイロノート以外にも、フォーム機能を使った事前アンケートを授業の導入とまとめに生かすなど、ICTを様々な形で活用していました。

先生たちの学習研究を紹介します



まずは、使ってみることが大事だと感じました。使っていく中で慣れていく、慣れてきたらどういうふうに使っていくか、授業にどう活かすか、活かされるかを考えていくことが必要。今後、ICTを積極的に活用し、子どもたちの学びを充実させていきたいです。

学校の先生たちも、子どもたちの学びが変わっていくことに合わせ、効果的な指導方法の研究に日々取り組んでいます。



学習用端末を効果的に活用するためには、操作方法などのスキルの向上とともに、インターネットの安全利用やオンライン学習の実施に適切に対応するため、情報モラル教育の徹底も重要な課題です。

新たな学びのスタイルへ

子どもたち一人ひとりに1台の情報端末が導入され、授業や家庭学習で活用する時代が到来しました。しかし、忘れてはいけないのは、タブレットはあくまでも「**学びを深めるための1つの道具**」であるということです。道具を上手に使いこなすためには、まず道具のことにしっかりと理解する必要があります。さらに、約束やルールがなぜ必要なのかをわかったうえで、「**習うより慣れろ**」の精神で教員も児童生徒もどんなに使ってほしいと思っています。

今までの授業では実現できなかった学びを可能にする道具になるように、そして、「**主体的・対話的で深い学び**」がこのタブレットから広がっていくように、多様な活用方法を提案していきたいと考えています。



長浜市ICT教育推進・普及員
筑田 利美

「GIGAスクール構想」で実現する学びのイメージ

一斉学習

教材や学習課題等の拡大表示による視覚的・わかりやすい説明により、子どもたちの理解を深めるとともに、一人ひとりの反応を踏まえた双方向型の一斉授業を実現します。

学びの深化

個別最適な学び
インターネット・デジタル教材の活用による個々の興味・関心等に応じた探究的な学習活動を行います。また、教員が一人ひとりの学習履歴を把握することにより個々の理解や学習進度に応じた学びを実現します。

学びの転換

協働的な学び
一人ひとりの考えをお互いにリアルタイムで共有し、子ども同士による意見交換や発表等を通じて、思考力・判断力・表現力を育成します。

また、遠隔授業にも取り組み、多様な人々とのつながりを実現し、学びを深めていきます。



ICTの「学び」への活用

～“1人1台”を活用して、教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る。～

国語

書く過程を記録し、より良い文章の作成に役立てる

- 文章作成ソフトで文章を書き、コメント機能などを使用して助言しあう
- 文章作成ソフトの校閲機能を使用して推敲し、データを共有する

社会

国内外のデータを加工して可視化したり、地図情報に統合したりして、深く分析する

- 各自で収集したデータや地図を重ね合わせ、情報を読み取る
- 分析した情報を、プレゼンソフトでわかりやすく加工して発表

算数・数学

関数や図形などの変化の様子を可視化して、繰り返し試行錯誤する

- 画面上に表示した二次関数のグラフについて、式の値を変化させて動かしながら二次関数の特徴を考察する
- 正多角形の基本的な性質をもとに、プログラミングを通して正多角形の作図を行う

理科

観察、実験を行い、動画等を使ってより深く分析・考察する

- 観察、実験を動画等で記録することで、現象を科学的に分析し、考察を深める
- 観察、実験のレポートやプレゼンテーション資料などを、写真やグラフを挿入するなどして、一人ひとりが主体的に作成する

英語

海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、発信力を高める

- 一人ひとりが海外の子どもとつながり、英語で交流・議論を行う
- ライティングの自動添削機能やスピーキングの音声認識機能を使い、アウトプットの質と量を大幅に高める

(参照)「GIGAスクール構想の実現へ」リーフレット(文部科学省より)